

# 園芸文化研究所開所式と記念公演

園芸文化研究所開所式は、2003年7月19日(土)午前11時より、恵泉女学園大学チャペルにおいて、岩村太郎宗教委員長の司会で始まった。

はじめに、石井学長より、「大学での園芸教育は、生活に密着した園芸を通し、命の大切さ、自然の営みの大切さに目覚め、神が造られた美しい世界の回復のために、希望を持って歩むための人間教育としての園芸教育であってほしい」と式辞で述べた。

大口理事長・学園長は祝辞のなかで「既に、短大と大学との統合は、2005年度に決まっているが、恵泉の高等教育部門における園芸教育を新たに展開して行くなかで、園芸文化研究所は極めて重要な役割を担うことになる、これからの園芸教育を園芸文化研究所が中心になって、継承し実践して欲しい」と述べ、続いて、短大園芸学科の同窓生で、評議員でもある、森山倭文子恵泉園芸センター常任顧問は、「短大園芸学科が70年の歴史を閉じることは、感無量の思いがあるが、園芸における文化活動を実践してきた恵泉の働きをより発展させるよう、園芸文化研究所が基本構想を創って欲しい」と述べた。

最後に、箱田所長から「2001年度『中長期計画審議委員会高等教育部会』の協議により、大学と短大との統合が合意され、2002年度、理事会の下で『大学・短期大学統合準備委員会』を設置、その下部組織として『園芸文化研究所設立準備委員会』が設置され、1年間の討議を経て、ここに『園芸文化研究所』が開設された」と研究所設立までに至る経過が報告された。

尚、開所式には、理事、評議員並びに、大学、短大、その他の関係者など含め61名の方々が参加された。

チャペルにおける開所式の終了後、懇談会をはさんで、午後2時より園芸文化研究所開所式を記念して、ビル。ヒクソン氏によるフラワー・アレンジメントに関する記念公演とデモンストレーションが行われた。